

中学2年 社会 授業用プリント ⑥ 産業の発達と幕府政治の改革

1 全体像	2～5 産業と都市	6・7 元禄のころ	8～11 享保から寛政へ	12・13 学問と文化	14・15 外国船と天保	16 まとめ
-------	-----------	-----------	--------------	-------------	--------------	--------

1 この単元の全体像 ― なぜ、幕府は何度も改革をしなかった？

このページのゴール	江戸時代の中ごろから後半の産業・文化・政治の流れと、この単元で学ぶ5つのことを、ざっとと言える
-----------	---

⑤では、江戸幕府が大名・外国・人々をおさえるしくみをつくったことを学びました。平和が続くと、産業や交通が発達し、町人が力をつけて新しい文化が生まれました。一方で、幕府の財政（お金のやりくり）は苦しくなり、ききんや外国船の接近も重なって、幕府は改革をくり返しました。

江戸時代（1603～1867年）									
前半 (⑤)	中ごろ（17世紀の終わり～18世紀）			後半（18世紀の終わり～19世紀の前半）					終わり (⑧)
	1680年	1716年	1772年	1787年	1792年	1825年	1837年	1841年	
幕府の成立と鎖国	綱吉（つなよし）が5代将軍に（6）	吉宗（よしむね）が享保（きょうほう）の改革を始める（8）	田沼意次（たぬまおきつぐ）が老中に（10）	松平定信（まつだいらさだのぶ）が寛政（かんせい）の改革を始める（11）	ラクスマンが根室（ねむろ）に来る（14）	異国船打払令（いこくせんうちはいれい）（14）	大塩平八郎（おおしおへいはちろう）の乱（15）	水野忠邦（みずのただくに）が天保（てんぽう）の改革を始める（15）	開国と幕府の滅亡

（ ）の数字は、くわしく学ぶページです。

政治	綱吉	→	吉宗	→	田沼	→	定信	→	水野
社会	産業の発達	→	貨幣が広まる	→	ききんと一揆	→	外国船		

① 産業と都市	くわしくは 2～5ページ
農業・漁業・鉱山、江戸・大阪・京都、街道と航路を学びます。	
② 元禄のころ	くわしくは 6・7ページ
5代将軍の政治と、上方の町人の文化を学びます。	
③ 享保から寛政へ	くわしくは 8～11ページ
吉宗・田沼意次・松平定信の政治と、農村の変化を学びます。	
④ 学問と化政文化	くわしくは 12・13ページ
新しい学問と、江戸の町人の文化を学びます。	
⑤ 外国船と天保	くわしくは 14・15ページ
日本に近づく外国船と、天保の改革を学びます。	
この単元の問い　なぜ、幕府は何度も改革をしなかった？（答えは16ページ）	

この単元の解説記事（図と例題つき）：[かてきょノート \(katekyo-note.com\)](https://katekyo-note.com/) <https://katekyo-note.com/%e3%80%90e4%b8%ad2%e7%a4%be%e4%bc%9a%e3%83%bb%e6%ad%b4%e5%8f%b2%e3%80%91e7%94%a3%e6%a5%ad%e3%81%ae%7%99%ba%e9%81%94%e3%81%a8%e>

2 江戸時代の農業は、どのように発達した？

このページのゴール 新田開発、新しい農具と使い道、お金で買う肥料、商品作物を言える

① 新田開発で田畑がふえた

⑤で学んだように、幕府や藩の収入の中心は、百姓が納める年貢（米）でした。年貢をふやすため、幕府や藩は新しい田畑を開くことに力を入れました。

新田開発=幕府や藩が、年貢をふやすため、用水路をつくったり、海や沼地を干拓（かんたく）したりして新しい田畑を開いたこと。百姓も新田を開き、耕地は大きく増えた

② 新しい農具とお金で買う肥料

農具	何に使う	何が変わった
備中ぐわ （びっちゅうぐわ）	土を深く耕す。刃が3〜4本に分かれている	深く耕せる
千歯こき （せんばこき）	稲の穂からもみ（実）をこき落とす（脱穀）	脱穀が速くなった
唐箕 （とうみ）	風で、もみと、もみから・ごみをより分ける	もみを選び分けられる



備中ぐわ
（土を深く耕す）



千歯こき
（もみをこき落とす）

写真：katorisi (CC BY 2.5)、katorisi (CC BY-SA 3.0)。
Wikimedia Commons より、白黒にして切り取った

肥料も変わりました。草や灰のほかに、いわしを干した**干鰯**（ほしか）や、菜種などから油をしばったかす（**油かす**）を、お金で買って使うようになりました。

③ 売るためにつくる作物

商品作物=売ってお金にするためにつくる作物。百姓は、商品作物を売ってお金を得るようになった

作物	何にするか・産地
綿・菜種	綿は木綿（もめん）の布の原料、菜種は油の原料になった
紅花（べにばな）・藍（あい）	染料（布を染める材料）になった。紅花は出羽（でわ。山形県）、藍は阿波（あわ。徳島県）が産地
茶・たばこ・桑	茶・たばこも売られた。桑は、かいこ（絹の糸をつくる虫）のえさになった

注意 ×千歯こきは、田を深く耕すための道具だ → ○深く耕すのは備中ぐわ。千歯こきは、稲の穂からもみをこき落とす道具

合言葉 「備中ぐわで耕し、千歯こきでこく」

→ まとめ：農業が発達し、百姓は商品作物を売ってお金を得るようになった

3 農業のほかに、どんな産業がさかんになった？

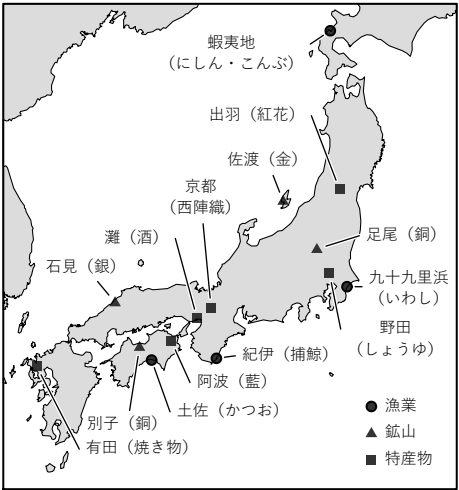
このページのゴール 各地の漁業・鉱山・特産物と、それがどこでさかんだったかを地図で言える

2ページで学んだ干鰯の原料は、海でとれるいわしです。江戸時代は、農業のほかに、漁業や鉱山、手工業もさかんになりました。

① 漁業と鉱山

産業	場所	中身
漁業	九十九里浜（くじゅうくりはま。千葉県）	いわし漁。とったいわしは干鰯にして、肥料として売られた
	蝦夷地（えぞち。北海道）	にしん・こんぶ。アイヌの人々との交易（⑤）で本州へ運ばれた
	土佐（高知県）・紀伊（和歌山県）	土佐はかつお漁、紀伊などは捕鯨
鉱山	佐渡（さど。新潟県）	金
	石見（いわみ。島根県）	銀
	別子（べっし。愛媛県）・足尾（あしお。栃木県）	銅

幕府は、おもな鉱山を直接支配し（⑤）、金・銀・銅で貨幣をつくりました。金・銀・銅は、長崎の貿易の輸出品にもなりました（⑤）。



地図：Natural Earth

② 各地の特産物

特産物＝その土地の気候や原料を生かしてつくられた産物。京都の西陣織（にしじんおり）、佐賀県の有田焼（ありたやき）、兵庫県の灘（なだ）の酒、千葉県の野田（のだ）のしょうゆ など

地図で場所を答えるときは、地図で県の位置を確かめ、その場所の産物と合うかを考えます。

注意 ×江戸時代の鉱山の金や銀は、すべて外国に輸出された → ○幕府は金・銀・銅で貨幣をつくった。輸出もされた（⑤）

合言葉 「九十九里のいわしは干鰯に」

→ まとめ：各地で特産物がつくれ、品物を売り買いする商業がさかんになった

4 江戸・大阪・京都は、それぞれどんな都市だった？

このページのゴール 三都のよび名と役割、蔵屋敷、株仲間と両替商を言える

2・3ページの年貢米や品物は、都市に集まって売り買いされました。江戸・大阪・京都をあわせて三都とよびます。

都市	よび名	役割
江戸	「将軍のおひざもと」	幕府がある政治の中心。武士と町人が多く住む
大阪	「天下の台所」	商業の中心。諸藩の蔵屋敷が置かれた
京都	（古くからの都）	朝廷がある。西陣織などの工芸品と、学問・文化の中心

都市の説明を選ぶときは、「何の中心か」と「何があるか」の手がかりで決めます。中国人が住んだ唐人屋敷があったのは長崎です（⑤）。

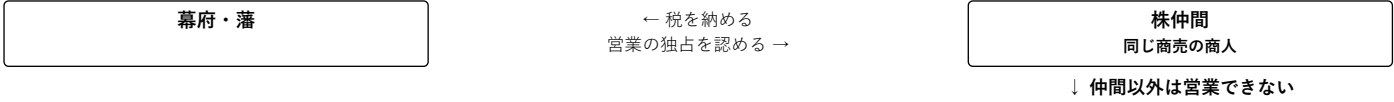
① 大阪の蔵屋敷

蔵屋敷＝諸藩が大阪などに置いた施設。年貢米や特産物を運びこんで売り、お金にかえた

大名も、年貢米を売ったお金で暮らし、商人からお金を借りるようになりました。

② 商人の力

株仲間＝同じ商売の商人がつくった組合。幕府や藩の許可を得て、税を納める代わりに、営業を独占した



両替商は、金貨・銀貨・銭の交換や、お金の貸し付けをして、大きな力をもちました（三井・鴻池〈こうのいけ〉など）。東日本ではおもに金貨、西日本ではおもに銀貨が使われたので、両替商の交換の仕事が欠かせませんでした。

注意 ×江戸は「天下の台所」とよばれた → ○天下の台所は大阪。江戸は「将軍のおひざもと」

合言葉 「将軍の江戸、台所の大阪、都の京都」

→ まとめ：町人（商人）が、貨幣の力で大きな力をもつようになった

5 人や物は、どのように運ばれた？

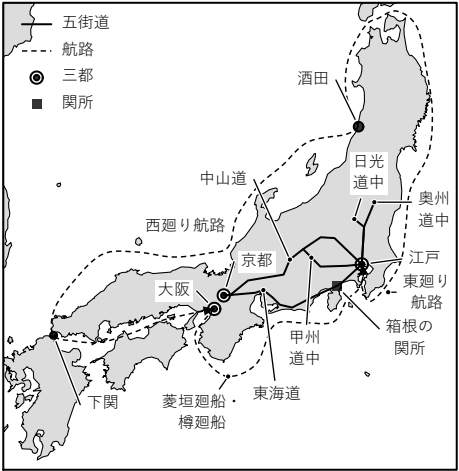
このページのゴール 五街道と宿場・関所、西廻り航路と東廻り航路、大阪と江戸を結ぶ船を言える

① 陸の道

五街道＝江戸の日本橋を起点に整えられた、東海道・中山道（なかせんどう）・甲州道中（こうしゅうどうちゅう）・日光道中・奥州道中（おうしゅうどうちゅう）。街道には**宿場**が置かれた

宿場は、旅人が泊まったり、荷物を運ぶ人や馬を取りかえたりした所で、大名が泊まる本陣（ほんじん）もありました。手紙や荷物は**飛脚**（ひきやく）が運びました。

関所＝箱根（神奈川県）などの街道に置かれ、通る人や荷物を調べた所。江戸に鉄砲が入ること、江戸の屋敷の大名の妻が出ることを特にきびしく調べた（「入り鉄砲に出女」）。大名の反乱を防ぐため



地図：Natural Earth

② 海の道と、陸の道とのくらべ

重い荷物は、陸より船のほうが一度に多く運べました。17世紀の後半には、**西廻り航路**（酒田〈さかた。山形県〉から日本海と瀬戸内海を通過して大阪へ）と**東廻り航路**（津軽海峡と太平洋を通過して江戸へ）が開かれました。大阪と江戸の間は、**菱垣廻船**（ひがきかいせん）や**樽廻船**（たるかいせん。酒の樽を運んだ）が、木綿・油・酒などを運びました。

くらべること	陸の道	海の道
運ぶもの	人や手紙、少しの荷物。大名行列	米などの重い荷物を一度に多く
道すじ	五街道（宿場・関所）	西廻り航路・東廻り航路・大阪と江戸の間の航路

注意 × 西廻り航路は、太平洋を通過して江戸へ米を運んだ → ○ 西廻り航路は日本海と瀬戸内海を通過して大阪へ。太平洋を通過して江戸へ行くのは東廻り航路

合言葉 「西廻りは大阪へ、東廻りは江戸へ」

→ まとめ：年貢米や特産物が大阪や江戸に集まり、商業がさかんになった

6 5代将軍の綱吉は、どんな政治を行った？

このページのゴール 武断政治から文治政治への変化、朱子学、生類憐みの令、貨幣の質を落としたことと物価、新井白石の政治を言える

① 武力から学問へ

⑤で学んだように、幕府は初め、大名の領地を取り上げる改易（かいえき）など、武力でおさえる政治を行いました。1680年、徳川綱吉が5代将軍になったころには、戦乱が終わって社会が安定していたので、幕府は、武力でおさえるより、学問や礼儀を重んじる政治に変えました。

くらべること	武断政治（ぶだんせいじ）	文治政治（ぶんちせいじ）
やり方	武力で大名をおさえる。改易など（⑤）	学問や礼儀を重んじ、身分の上下を守らせる

朱子学（しゅしがく）＝儒学（じゅがく）の中の一つで、身分の上下や主君への忠義を大切にする教え。綱吉が重んじ、江戸の湯島に孔子（こうし）をまつる聖堂を建てた

生類憐みの令（しょうるいあわれみのれい）＝綱吉が出した、犬などの動物をととても大切にするように命じた法令。人々を苦しめた

② 貨幣の質と物価

- ① 寺や神社を建てる費用などで、幕府の財政が苦しくなる
- ② 金・銀の産出も減る
- ③ 貨幣の質を落として、量をふやす
- ④ 物価が上がり、人々の暮らしが苦しくなる

③ 新井白石の政治

18世紀の初め、6代・7代将軍に仕えた学者の新井白石（あらいはくせき）は、貨幣の質をもとにもどしました。また、⑤で学んだように長崎の貿易では銀などが輸出されたので、長崎での貿易の額を制限して、金・銀が海外に流れ出るのを防ぎました。どちらも、苦しくなった幕府の財政を立て直すための政治でした。

注意 × 綱吉のころから、幕府は武力で大名をおさえる政治を強めた → ○ 武力より、学問や礼儀を重んじる政治（文治政治）に変えた

合言葉 「綱吉は武力より学問と礼儀」

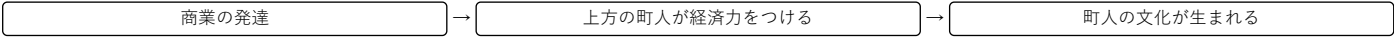
→ まとめ：幕府の財政が苦しくなり始め、貨幣のやりくりが苦しんだ

7 元禄文化は、だれが中心になった、どんな文化？

このページのゴール 元禄文化が上方の町人を中心に栄えたわけと、おもな人物と作品を言える

① 上方の町人の文化

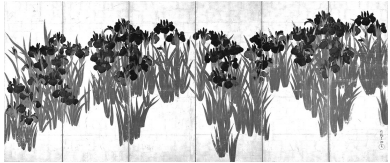
4・5ページで学んだように、商業の中心の大阪などで、町人が経済力をつけました。5代將軍綱吉のころには、その町人が文化の担い手になりました。



元禄文化（げんろくぶんか）＝17世紀の終わりと18世紀の初め、5代將軍綱吉のころに、**経済力をつけた上方（京都・大阪）の町人**を中心に栄えた、明るく活気のある文化

② おもな人物と作品

分野	人物	作品や中身
小説（ <u>浮世草子</u> 〈うきよぞうし〉）	<u>井原西鶴</u> （いはらさいかく）	町人の生活をえがいた「日本永代蔵（にっぽんえいたいぐら）」
脚本（人形浄瑠璃〈にんぎょうじょうるり〉・歌舞伎）	<u>近松門左衛門</u> （ちかまつもんざえもん）	「曾根崎心中（そねざきしんじゅう）」
俳諧（はいかい）	<u>松尾芭蕉</u> （まつおばしょう）	俳諧を芸術に高めた。各地を旅して「おくのほそ道」を書いた
浮世絵	<u>菱川師宣</u> （ひしかわもろのぶ）	町人の風俗をえがいた
装飾画	<u>尾形光琳</u> （おがたこうりん）	はなやかな「燕子花図屏風（かきつばたずびょうぶ）」



燕子花図屏風
（尾形光琳の作）
絵：尾形光琳（著作権切れ）。Wikimedia Commons より、白黒にした

人物と作品の組み合わせを見分けるときは、まず「分野」（小説・脚本・俳諧・絵）を決めてから、人物を選びます。歌舞伎も人気を集めました。

注意 × 元禄文化は、江戸の庶民を中心に栄えた → ○ 元禄文化は上方の町人が中心。江戸の町人が中心なのは化政文化（13ページ）

合言葉 「元禄は上方、西鶴・近松・芭蕉」

→ まとめ：商業の発達で町人が力をつけ、町人の文化が生まれた

8 8代将軍の吉宗は、どのように幕府を立て直そうとした？

このページのゴール 享保の改革の中身（俵約・上げ米・新田開発と年貢・公事方御定書・目安箱）とねらいを言える

6ページで学んだように、幕府の財政は苦しくなっていました。1716年、紀伊藩（きいはん）主だった徳川吉宗が8代将軍になり、改革を始めました。

享保の改革（きょうほうのかいかく）＝1716年、8代将軍の徳川吉宗が、幕府の財政を立て直すために始めた改革

① 改革の中身

何をした	ねらい
質素・俵約をすすめた	出費をへらす
上げ米（あげまい）＝大名に、石高に応じて米を幕府に納めさせ、その代わりに、参勤交代で江戸にいる期間を短くした	幕府の米をふやす
新田開発をすすめ、年貢の取り方を変えた	年貢をふやす
1742年、それまでの判決の例をもとに、裁判や刑罰の基準となる公事方御定書（くじかたおさだめがき）を定めた	裁判を公正にする
目安箱（めやすばこ）を置いて、庶民の意見を聞いた（その意見から、貧しい病人のための小石川養生所〈こいしかわようじょうしょ〉がつくられた）	庶民の意見を聞く
キリスト教に関係のない、ヨーロッパの本の輸入を認めた（12ページ）	ヨーロッパの学問を取り入れる

② 上げ米のしくみ

大名	石高に応じて米を納める → ← 江戸にいる期間を短くする	幕府
----	---------------------------------	----

③ 改革の結果

- ① 幕府の財政は、一時立ち直る
- ② 年貢が重くなる
- ③ 1732年、享保のききんが起こり、百姓一揆や打ちこわしが起こる（9ページ）

注意 × 享保の改革では、大名に米を納めさせる代わりに、参勤交代をやめさせた → ○ やめさせたのではなく、江戸にいる期間を短くした

合言葉 「吉宗は上げ米・御定書・目安箱」

→ まとめ：財政は一時立ち直ったが、年貢が重くなり、ききんで一揆が起こった

9 農村と物づくりは、どのように変わった？

このページのゴール 地主と小作人に分かれたわけ、問屋制家内工業と工場制手工業のちがい、百姓一揆と打ちこわしのちがいを言える

① 農村の変化（架空のH村の例）

- ① H村の百姓が、商品作物の綿をつくって売る（2ページ）
- ② 肥料の干鰯や農具を、お金で買うようになる
- ③ お金に困った百姓が、田畑を手放して小作人になる
- ④ 田畑を買い集めた百姓が、地主になる

地主＝田畑を買い集め、貸して小作料を取る豊かな百姓／小作人＝田畑を手放し、地主から借りて耕す貧しい百姓。貧富の差が広がった

こうして貨幣を使う暮らしが広まると、物価が上がり、収入の中心が年貢（米）の幕府や藩の財政は苦しくなりました（16ページ）。

② 物づくりの変化



③ 百姓一揆と打ちこわし

	<u>百姓一揆</u>	<u>打ちこわし</u>
起こった所	農村	都市
したこと	百姓たちが団結して、年貢を軽くすることや不正な役人をやめさせることなどを領主に求めた	米の値段が上がって暮らしに苦しんだ人々が、米を買いしめた商人の家などをおそった

注意 ×打ちこわしは、農村で百姓が領主に年貢を軽くするよう求めたことだ → ○それは百姓一揆。打ちこわしは都市で、商人の家などをおそった

合言葉 「村は一揆、町は打ちこわし」

→ まとめ：農村に貨幣が広まって貧富の差が広がり、ききんのたびに一揆や打ちこわしが起こった

10 田沼意次は、どのように幕府の収入をふやそうとした？

このページのゴール 田沼意次の政治の中身（株仲間・長崎での貿易・新田開発・蝦夷地の調査）と、行きづまったわけを言える

8ページの享保の改革で財政は一時立ち直りましたが、年貢をふやすやり方だけでは、幕府の収入は足りませんでした。

田沼意次の政治=1772年に老中（ろうじゅう）になった田沼意次が、年貢だけにたよらず、商工業の力を利用して幕府の収入をふやそうとした政治。株仲間に特権をあたえて税を納めさせ、長崎での貿易で銅や倭物の輸出をふやした

① 田沼の政治の中身

何をした	ねらい
株仲間をつくることをすすめ、特権をあたえる代わりに、税を納めさせた	税を取る
長崎での貿易を活発にし、銅や倭物（たわらもの。蝦夷地などの海産物のいりこ・ほしあわび・ふかひれを倭につめた物）の輸出をふやした	貿易の利益を得る
印旛沼（いんばぬま。千葉県）を干拓して、新田を開こうとした	新田を開く
蝦夷地を調べさせた	ロシアとの貿易や開発を考える

② 行きづまり

- ① 商人の力が強まる
- ② 役人の間でいろいろが広まったと批判される
- ③ 1782年から天明のききんが続く
- ④ 百姓一揆や打ちこわしが急にふえる
- ⑤ 1786年、田沼が老中をやめさせられる

天明のききん=1782年から続いたききん。1783年の浅間山（あさまやま）の大噴火などによる冷害で、百姓一揆や打ちこわしが急にふえた

注意 × 田沼意次は、株仲間を解散させて、商人の力をおさえた → ○ 田沼は株仲間をすすめた。解散させたのは天保の改革の水野忠邦（15ページ）

合言葉 「田沼は商人の力で収入をふやす」

→ まとめ：商業を利用する政治は、いろいろの批判とききんで行きづまった

11 松平定信は、どのように政治を立て直そうとした？

このページのゴール 寛政の改革の中身と、田沼の政治とのちがいを、人々の反発を受けたわけを言える

10ページの天明のききんで、農村は荒れていました。1787年、吉宗の孫で白河藩（しらかわはん）主だった松平定信が老中になりました。

寛政の改革＝1787年、老中の松平定信が始めた、農村を立て直し、倭約をすすめる改革

① 改革の中身

分野	中身
農村	ききんに備えて、大名に米をたくわえさせた（ 囲い米 〈かこいまい〉）。江戸に出てきていた農民に、お金をあてて村へ帰した
武士	生活に苦しむ旗本・御家人の、商人からの借金を帳消しにした
学問	幕府の学校（昌平坂学問所〈しょうへいざかがくもんじょ〉）で、朱子学以外の学問を教えることを禁じた
取りしまり	倭約をきびしく求め、政治を批判する本などの出版をきびしく取りしまった

② 田沼の政治とのくらべ

くらべること	田沼の政治（10ページ）	寛政の改革
中心の人	田沼意次	松平定信
何にたよる	商工業の力（株仲間・貿易）	農業と年貢（農村の立て直し）・倭約
ききん	天明のききんで行きづまった	囲い米でききんに備えた
終わり方	わいろの批判とききん	きびしすぎて反発を受ける

③ 人々の反発

白河の清きに魚も住みかねて もとのにごりの田沼恋しき
 白河藩主の定信のきびしい政治より、田沼のころのほうがよかった、という意味です。
 政治や社会を皮肉った、こっけいな短歌を**狂歌**（きょうか）といいます

注意 × 寛政の改革は、株仲間をすすめて商業で幕府の収入をふやそうとした → ○ それは田沼の政治。寛政の改革は、農村を立て直し、倭約をすすめた

合言葉 「定信は囲い米と倭約、きびしすぎて反発」

→ まとめ：農村を立て直そうとしたが、きびしすぎて反発を受けた

12 江戸時代の後半には、どんな学問が広まった？

このページのゴール 国学と本居宣長、蘭学と解体新書・伊能忠敬、藩校と寺子屋を言える

8ページで、吉宗がヨーロッパの本の輸入を認めたことを学びました。江戸時代の後半には、新しい学問が広まりました。

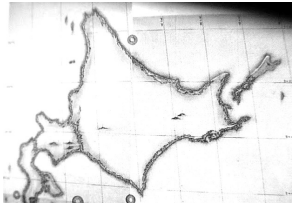
① 国学と蘭学

	国学（こくがく）	蘭学（らんがく）
学ぶこと	日本の古典を研究して、仏教や儒教が伝わる前の、日本人の古くからの考え方を明らかにする	オランダ語で、ヨーロッパの学問や技術を学ぶ
人物と成果	本居宣長（もとおりのりなが）が「古事記」を研究して「古事記伝」を書き、国学を大成した	杉田玄白（すぎたげんぱく）・前野良沢（まえのりょうたく）ら

解体新書＝1774年、杉田玄白・前野良沢らが、オランダ語の解剖書を翻訳して出版した本。それまでの医学書より正確だった

伊能忠敬（いのうただたか）＝1800年から全国の海岸線を歩いて測量し、正確な日本地図をつくった人

国学は、のちに天皇を尊ぶ考え方に影響をあたえました（くわしくは⑧）。



伊能忠敬の日本地図
（蝦夷地（今の北海道）の部分）
絵：伊能忠敬（著作権切れ）。Wikimedia Commons より、白黒にして切り取った

② 学ぶ場所

	藩校（はんこう）	寺子屋（てらこや）
学ぶ人	武士の子	町や村の庶民の子ども
学ぶこと	藩がつくった学校で、武士に必要な学問を学ぶ	読み・書き・そろばん

寺子屋が各地にできて、読み書きのできる人がふえ、本を読む人もふえました。

注意 × 国学は、オランダ語の本からヨーロッパの学問を学ぶ学問だ → ○ それは蘭学。国学は日本の古典を研究する学問

合言葉 「宣長は国学、玄白は蘭学」

→ まとめ：新しい学問が広まり、幕府の政治や外国を見る目も育った

13 化政文化は、元禄文化とどうちがう？

このページのゴール 化政文化が江戸の町人を中心に栄えたことと、おもな人物と作品、元禄文化とのちがいを言える

12ページの寺子屋で、読み書きのできる人がふえました。19世紀の初めには、江戸の町人を中心に、新しい文化が栄えました。

化政文化（かせいぶんか）＝19世紀の初め、文化・文政のころ（11代将軍家斉〈いえなり〉）に、江戸の町人を中心に栄えた、皮肉やこっけいを好む文化。多色刷りの版画の錦絵（にしきえ）が大量に刷られ、安く売られた



富嶽三十六景「神奈川沖浪裏」
（葛飾北斎の作）

絵：葛飾北斎（CC0）。Wikimedia Commons より、白黒にして切り取った

① 元禄文化とのくらべ

くらべること	元禄文化	化政文化
時期	17世紀の終わり～18世紀の初め	19世紀の初め
中心	上方の町人	江戸の町人
文学	井原西鶴・近松門左衛門	十返舎一九（じっぺんしゃいっく）「東海道中膝栗毛（とうかいどうちゅうひざくりげ）」、曲亭馬琴（きょくていばきん）「南総里見八犬伝（なんそうさとみはっけんでん）」
俳諧	松尾芭蕉	小林一茶（こばやしいつさ）・与謝蕪村（よさぶそん）
絵	菱川師宣・尾形光琳	錦絵：葛飾北斎（かつしかほくさい）「富嶽三十六景（ふがくさんじゅうろっけい）」・歌川広重（うたがわひろしげ）「東海道五十三次」・喜多川歌麿（きたがわうたまろ）

川柳（せんりゅう。五七五）や狂歌（五七五七七の短歌）は、政治や社会を皮肉った短い詩です。人々の間で、伊勢参りなどの旅や、歌舞伎・寄席（よせ）が楽しまれ、文化は地方にも広まりました。

注意 × 化政文化の浮世絵は、1枚ずつ手でえがかれたので、大名しか買えなかった → ○ 多色刷りの版画（錦絵）が大量に刷られ、町人も安く買えた

合言葉 「化政は江戸、北斎・広重・一九」

→ まとめ：町人の力がさらに強まり、文化は江戸から地方にも広まった

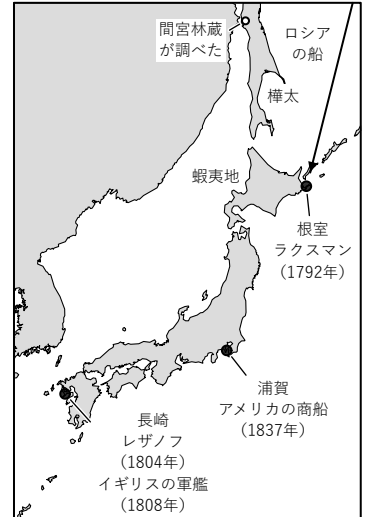
14 18世紀の終わりから、どんな外国の船が日本に来た？

このページのゴール ロシア・イギリス・アメリカの船の接近と、幕府の対応（蝦夷地の調査・異国船打払令）を言える

⑤で学んだ鎖国のもとで、外国との行き来は、決められた窓口に限られていました。ところが18世紀の終わりから、ロシア・イギリス・アメリカの船が、日本の近くに現れるようになりました。

① 近づく外国船

- ❶ 1792年 ロシアの使節ラクスマンが根室（北海道）に来て、通商を求める。幕府は断った
- ❷ 1804年 ロシアのレザノフが長崎に来る
- ❸ 1808年 イギリスの軍艦が長崎の港に入りこむ（フェートン号事件）
- ❹ 1825年 幕府が異国船打払令を出す
- ❺ 1837年 日本人の漂流民を送り届けに来たアメリカの商船（モリソン号）を砲撃して追い返す
- ❻ 1839年 打ち払いを批判した蘭学者の渡辺崋山（わたなべかざん）・高野長英（たかのちやうえい）が処罰される（壱社の獄〈ばんしゃのごく〉）



地図：Natural Earth

異国船打払令 = 1825年、幕府が出した、日本に近づく外国船を打ち払うように命じた法令

② 北方の調査

幕府は、北方の守りを固めるため、蝦夷地や樺太（からふと）を調べさせました。間宮林蔵（まみやりんぞう）は、樺太が島であることを確かめました。

注意 × 異国船打払令が出されたのは、外国と貿易を始めるためだった → ○ 外国船を打ち払い、鎖国を守るため

合言葉 「ラクスマンは根室、打払令は1825年」

→ まとめ：外国船が近づき、幕府は外国への備えにも追われた

15 天保の改革は、なぜ失敗した？

このページのゴール 天保のききんと大塩平八郎の乱、天保の改革の中身、外国船への方針の変化、失敗と雄藩の成長を言える

- 1830年代 天保のききんが全国に広がり、百姓一揆や打ちこわしが各地で起こる
- 1837年 大塩平八郎の乱が起こる
- 1841年 天保の改革が始まる

大塩平八郎の乱＝1837年、大阪町奉行所（おおさかまちぶぎょうしょ）の元役人の大塩平八郎が、ききんで苦しむ人々を救おうと、大阪で兵をあげた。幕府が直接支配する大阪で元役人が反乱を起こしたことは、幕府に大きな衝撃をあたえた

天保の改革＝1841年、老中の水野忠邦が始めた改革。倭約・株仲間の解散・農民を村へ帰す・上知令

① 改革の中身

何をした	ねらい
ぜいたくを禁じ、倭約をきびしく命じた	ぜいたくをおさえる
株仲間を解散させた	物価を下げる（株仲間が値段をつり上げていると考えた）
江戸に出てきた農民を、村へ帰らせた（人返しの法）	農村を立て直す
上知令（あげちれい）＝江戸や大阪の周りの領地を幕府の直接の領地にしようとしたが、強い反対で取りやめになった	幕府の力を強める
1842年、異国船打払令をやめ、日本に来た外国船に燃料のまきや水をあたえて帰すように方針を変えた	外国との争いをさける

1842年に方針を変えたのは、1840年に清（しん）がイギリスとのアヘン戦争に敗れたことを知ったからです（くわしくは⑦）。

② 失敗と雄藩

改革は短い期間で失敗し、忠邦は老中をやめさせられました。同じころ、薩摩藩（さつまはん。鹿児島県）や長州藩（ちょうしゅうはん。山口県）などは、借金を整理し、特産物を藩が独占して売るなどして財政を立て直し、力をつけて雄藩とよばれました（くわしくは⑧）。

注意 × 天保の改革は成功し、幕府の力はふたたび強くなった → ○ 上知令は反対で取りやめになり、改革は短い期間で失敗した。幕府の力はおとろえ、雄藩が力をつけた

合言葉 「水野忠邦、株仲間を解散、上知令で失敗」

→ まとめ：改革の失敗で幕府の力はおとろえ、雄藩が力をつけた

16 なぜ、幕府は何度も改革をしなかった？

このページのゴール 2～15ページを、ステップチャートで順に整理して、1ページの問いに答えられる

① ステップチャートでまとめる

社会の変化（2～5・9ページ） 産業が発達し、貨幣を使う暮らしが広まる → 物価が上がり、年貢にたよる幕府の財政が苦しくなる

外国の接近（14ページ） 18世紀の終わりから、ロシアなどの船が日本に近づく

	背景	中身	結果
① 享保の改革 1716年 徳川吉宗	綱吉のころからの財政難（6）	俵約・ <u>上げ米</u> ・年貢をふやす・公事方御定書・目安箱（8）	財政は一時立ち直るが、ききんで一揆（8・9）
② 田沼意次の政治 1772年	年貢だけでは収入が足りない（10）	<u>株仲間</u> に特権をあたえて税・長崎での貿易（10）	わいろの批判と天明のききんで行きづまる（10）
③ 寛政の改革 1787年 松平定信	天明のききんで農村が荒れる（10・11）	囲い米・農民を村へ・朱子学・俵約（11）	きびしい俵約と出版の取りしまりに反発を受ける（11）
④ 天保の改革 1841年 水野忠邦	天保のききん・大塩平八郎の乱・外国船（14・15）	俵約・株仲間の解散・上知令（15）	短い期間で失敗。幕府の力がおとろえ、 <u>雄藩</u> が力をつける（15）

② 年表

年	できごと	年	できごと
1680年	綱吉が5代将軍になる	1787年	松平定信が寛政の改革を始める
1716年	吉宗が享保の改革を始める	1792年	ラクスマンが根室に来る
1742年	公事方御定書が定められる	1825年	異国船打払令が出される
1772年	田沼意次が老中になる	1837年	大塩平八郎の乱
1774年	解体新書が出版される	1841年	水野忠邦が天保の改革を始める
1782年	天明のききんが始まる	1842年	外国船に燃料と水をあたえる方針に

③ 問いの答えの例

産業が発達して貨幣を使う暮らしが広まると、物価が上がり、年貢にたよる幕府の財政は苦しくなりました。農村では貧富の差が広がり、ききんのたびに百姓一揆や打ちこわしが起こりました。18世紀の終わりからは外国船も近づきました。幕府はそのたびに改革を行いましたが、俵約や年貢をふやす改革は反発を受け、商業を利用する政治は批判とききんで行きづまったので、改革をくり返さなければなりませんでした。

確認問題① 産業と都市・元禄のころ

答えと解説は21・22ページ（11枚目の紙）にあります。【 】は、わからないときに読み直すページです。

1 産業と都市について答えなさい。【2～5ページ】

- (1) 江戸時代の農具と使い道の組み合わせとして正しいものを選びなさい。
ア 備中ぐわー稲の穂からもみをこき落とす
イ 千歯こき一田に水を引く
ウ 備中ぐわー土を深く耕す
エ 唐箕一田の土をならす _____
- (2) 油の原料になる菜種や茶のように、自分たちで食べるためではなく、売ってお金にするために各地でつくられた作物を何とといいますか。 _____
- (3) 箱根などの街道の要所に置かれ、通る人や荷物を調べた所を何とといいますか。 _____
- (4) 街道に沿って置かれ、旅人が泊まったり、荷物を運ぶ人や馬を取りかえたりした町を何とといいますか。 _____
- (5) 西廻り航路の道すじとして正しいものを選びなさい。
ア 東北地方の日本海側から、津軽海峡と太平洋を通して江戸へ
イ 大阪から、太平洋を通して江戸へ
ウ 長崎から、東シナ海を通して中国へ
エ 東北地方の日本海側から、日本海と瀬戸内海を通して大阪へ _____
- (6) 同じ商売の商人どうしでつくり、幕府や藩に税を納める代わりに、仲間でない人に商売をさせないことを認められた組合を何とといいますか。 _____
- (7) 江戸時代、両替商の仕事が欠かせなかったわけを、東日本と西日本で使われた貨幣のちがいがから、「金貨」「銀貨」の2つの語を使って書きなさい。
- _____
- _____

2 元禄のころについて答えなさい。【6・7ページ】

- (1) 儒学の中で、身分の上下や主君への忠義を大切にする教えで、5代将軍が重んじた学問を何とといいますか。 _____
- (2) 5代将軍が出した、犬などの動物をととても大切にするように命じた法令を何とといいますか。 _____
- (3) 元禄文化の人物と作品の組み合わせとして正しいものを選びなさい。
ア 井原西鶴一俳諧の紀行文「おくのほそ道」
イ 近松門左衛門一人形浄瑠璃「曽根崎心中」
ウ 松尾芭蕉一小説の浮世草子「日本永代蔵」
エ 菱川師宣一錦絵の風景画「富嶽三十六景」 _____
- (4) 元禄文化の特色として正しいものを選びなさい。
ア 上方の町人を中心に栄えた、明るく活気のある文化
イ 江戸の町人を中心に栄えた、皮肉やこっけいを好む文化
ウ 大名や大商人を中心に栄えた、豪華で力強い文化
エ 貴族を中心に栄えた、日本の風土に合った文化 _____
- (5) 5代将軍の綱吉が、武力よりも学問や礼儀を重んじる政治に変えたのは、世の中がどうなったからですか。「戦乱」「安定」の2つの語を使って書きなさい。
- _____
- _____

確認問題② 享保の改革と社会の変化・田沼の政治と寛政の改革

答えと解説は21・22ページ（11枚目の紙）にあります。【 】は、わからないときに読み直すページです。

3 享保の改革と社会の変化について答えなさい。【8・9ページ】

- (1) 庶民が意見や願いを書いて入れられるように8代将軍が置いた物で、その意見から、貧しい病人のための小石川養生所がつくられました。この物を何といいますか。

- (2) 大名に、石高に応じて米を幕府に納めさせ、その代わりに、参勤交代で江戸にいる期間を短くしたことを何といいますか。 _____
- (3) 1742年、裁判を公正にするため、それまでの判決の例をもとにまとめられた、裁判や刑罰の基準を何といいますか。 _____
- (4) 田畑を買い集め、それを貧しい百姓に貸して、小作料を取った豊かな百姓を何といいますか。 _____
- (5) 百姓一揆の説明として正しいものを選びなさい。
ア 都市の人々が、米を買いしめた商人の家などをおそった
イ 百姓が田畑を手放し、都市へ働きに出るようになった
ウ 百姓が団結して、年貢を軽くするよう領主に求めた
エ 商人どうしが組合をつくり、営業を独占するようになった _____
- (6) 問屋制家内工業と工場制手工業のちがいを、品物をつくる場所とつくり方から、「家」「分業」の2つの語を使って書きなさい。

4 田沼の政治と寛政の改革について答えなさい。【10・11ページ】

- (1) 田沼意次の政治の説明として正しいものを選びなさい。
ア 商人の組合に税を納めさせ、商工業の力を利用した
イ 貨幣の質を落として量をふやし、費用をおぎなった
ウ ききんに備えて、各地の大名に米をたくわえさせた
エ 江戸や大阪の周りの領地を、幕府の直接の領地にしようとした _____
- (2) 1782年から続き、1783年の浅間山の大噴火などによる冷害で、百姓一揆や打ちこわしが急にふえたききんを何といいますか。 _____
- (3) 寛政の改革の中身として正しいものを選びなさい。
ア 新田を開くため印旛沼の干拓を始め、蝦夷地を調べさせた
イ キリスト教に関係のない、ヨーロッパの本の輸入を認めた
ウ 物価を下げるため、同じ商売の商人の組合を解散させた
エ 旗本・御家人の借金を帳消しにし、朱子学以外の学問を禁じた _____
- (4) 「白河の清きに魚も住みかねて…」のように、政治や社会を皮肉った、こっけいな短歌を何といいますか。 _____
- (5) 寛政の改革が、人々の反発を受けたわけを、「儉約」「出版」の2つの語を使って書きなさい。

確認問題③ 学問と化政文化・外国船と天保の改革・年表とまとめ

答えと解説は21・22ページ（11枚目の紙）にあります。【 】は、わからないときに読み直すページです。

5 学問と化政文化について答えなさい。【12・13ページ】

- (1) 「古事記」を研究して「古事記伝」を書き、仏教や儒教が伝わる前の日本人の考え方を明らかにしようとする学問を大成した人はだれですか。 _____
- (2) 1774年、杉田玄白・前野良沢らが、オランダ語の解剖書を翻訳して出版した本を何とといいますか。 _____
- (3) 1800年から全国の海岸線を歩いて測量し、正確な日本地図をつくった人はだれですか。 _____
- (4) 化政文化の人物と作品の組み合わせとして正しいものを選びなさい。
ア 歌川広重―「南総里見八犬伝」 イ 葛飾北斎―「富嶽三十六景」
ウ 十返舎一九―「おくのほそ道」 エ 喜多川歌麿―「東海道中膝栗毛」 _____
- (5) 各地に広まった寺子屋は、化政文化が庶民に広まるのに、どのように役立ちましたか。「読み書き」「本」の2つの語を使って書きなさい。

6 外国船と天保の改革について答えなさい。【14・15ページ】

- (1) 1792年、根室に来て、日本との通商を求めたロシアの使節はだれですか。 _____
- (2) 幕府の命令で北方を調べ、樺太が島であることを確かめた人はだれですか。 _____
- (3) 1825年、幕府が出した、日本に近づく外国船を打ち払うように命じた法令を何とといいますか。 _____
- (4) 天保の改革で、江戸や大阪の周りの大名や旗本の領地を、幕府の直接の領地にしようとした命令で、強い反対で取りやめになったものを何とといいますか。 _____
- (5) 1837年に大阪で起こった大塩平八郎の乱が、幕府に大きな衝撃をあたえたわけを、「役人」「大阪」の2つの語を使って書きなさい。

7 年表とまとめについて答えなさい。【1・9・14・16ページ】

- (1) 次のア～エを、年代の古い順に並べなさい。
ア 天明のききんが起こる イ 公事方御定書が定められる
ウ 寛政の改革が始まる エ 大塩平八郎の乱が起こる _____

次の表は、改革のまとめの一部です。(ア)(イ)に当てはまる語を書きなさい。

改革	中心の人	結果
享保の改革（1716年）	徳川吉宗	財政は一時立ち直るが、ききんで一揆
田沼意次の政治（1772年）	田沼意次	わいろの批判とききんで行きづまる
寛政の改革（1787年）	ア	きびしすぎて反発を受ける
天保の改革（1841年）	水野忠邦	短い期間で失敗。幕府の力がおとろえ、イが力をつける

- (2) 表の ア に入る、寛政の改革を始めた老中の名前を書きなさい。 _____
- (3) 表の イ に入る、力をつけた薩摩藩や長州藩などをまとめてよぶ言い方を書きなさい。 _____
- (4) 幕府が改革をくり返さなければならなかった背景を、社会の変化と外国の接近の面から、「一揆」「外国船」の2つの語を使って書きなさい。

覚えることの一覧（何も見ずに書けるか、紙でかくして確かめよう）

農業と諸産業（2・3ページ）

新田開発（年貢をふやす・用水路・干拓）・備中ぐわ（土を深く耕す）・千歯こき（もみをこき落とす）・唐箕（風でより分ける）・干鰯と油かす（お金で買う肥料）・商品作物（綿・菜種・紅花・藍）。九十九里浜のいわし・蝦夷地のにしんとこんぶ・佐渡の金・石見の銀・別子と足尾の銅・特産物（西陣織・有田焼・灘の酒・野田のしょうゆ）。

都市と交通（4・5ページ）

三都（江戸＝将軍のおひざもと・大阪＝天下の台所・京都＝朝廷）・蔵屋敷・株仲間（税を納めて営業を独占）・両替商。五街道（日本橋が起点）・宿場・関所（入り鉄砲に出女）・飛脚・西廻り航路（日本海と瀬戸内海から大阪）と東廻り航路（太平洋から江戸）・菱垣廻船と樽廻船。

綱吉と元禄文化（6・7ページ）

徳川綱吉（1680年）・武断政治から文治政治へ・朱子学・生類憐みの令・貨幣の質と物価・新井白石（貨幣の質をもどす・長崎での貿易を制限）。元禄文化（上方の町人）・井原西鶴・近松門左衛門・松尾芭蕉・菱川師宣・尾形光琳。

享保の改革と社会の変化（8・9ページ）

享保の改革（1716年・徳川吉宗）・上げ米・公事方御定書（1742年）・目安箱。地主と小作人・問屋制家内工業・工場制手工業・百姓一揆（農村）・打ちこわし（都市）。

田沼意次と寛政の改革（10・11ページ）

田沼意次（1772年）・株仲間に特権と税・長崎での貿易（銅・倭物）・天明のききん（1782年から）。寛政の改革（1787年・松平定信）・囲い米・朱子学以外の禁止・儉約・狂歌。

学問と化政文化（12・13ページ）

国学（本居宣長）・蘭学（解体新書 1774年・杉田玄白・前野良沢）・伊能忠敬・藩校と寺子屋。化政文化（江戸の町人）・錦絵・葛飾北斎・歌川広重・喜多川歌麿・十返舎一九・曲亭馬琴・小林一茶・川柳と狂歌。

外国船と天保の改革（14・15ページ）

ラクスマン（1792年）・間宮林蔵・異国船打払令（1825年）。天保のききん・大塩平八郎の乱（1837年）・天保の改革（1841年・水野忠邦）・株仲間の解散・上知令・外国船に燃料と水（1842年）・雄藩。

年表（16ページ）

年	できごと	年	できごと
1680年	綱吉が5代将軍になる	1787年	松平定信が寛政の改革を始める
1716年	吉宗が享保の改革を始める	1792年	ラクスマンが根室に来る
1742年	公事方御定書が定められる	1825年	異国船打払令が出される
1772年	田沼意次が老中になる	1837年	大塩平八郎の乱
1774年	解体新書が出版される	1841年	水野忠邦が天保の改革を始める
1782年	天明のききんが始まる	1842年	外国船に燃料と水をあたえる方針に

合言葉

備中ぐわで耕し、千歯こきでこく／九十九里のいわしは干鰯に／将軍の江戸、台所の大阪、都の京都／西廻りは大阪へ、東廻りは江戸へ／綱吉は武力より学問と礼儀／元禄は上方、西鶴・近松・芭蕉／吉宗は上げ米・御定書・目安箱／村は一揆、町は打ちこわし／田沼は商人の力で収入をふやす／定信は囲い米と儉約、きびしすぎて反発／宣長は国学、玄白は蘭学／化政は江戸、北斎・広重・一九／ラクスマンは根室、打払令は1825年／水野忠邦、株仲間を解散、上知令で失敗

確認問題の答えと解説

1【2～5ページ】

- (1) ウ (2) 商品作物
(3) 関所 (4) 宿場 (宿駅・宿場町でも正解)
(5) エ (6) 株仲間
(7) (例) 東日本ではおもに金貨、西日本ではおもに銀貨が使われていたので、貨幣を交換する両替商が必要だったから。
備中ぐわは、刃が3～4本に分かれ、土を深く耕せるくわです (こき落とすのは千歯こき、唐箕は風でもみとごみをより分ける道具です)。売ってお金にするためにつくる作物が商品作物です。箱根などで通る人や荷物を調べたのが関所、街道沿いで旅人が泊まり、人や馬を取りかえたのが宿場です。西廻り航路は、東北の日本海側から日本海と瀬戸内海をって大阪へ行きました (アは東廻り航路です)。税を納める代わりに営業を独占した組合が株仲間です。記述の採点のめやす：「金貨」「銀貨」の両方を使って書けていれば正解。【2～5】

2【6・7ページ】

- (1) 朱子学 (2) 生類憐みの令
(3) イ (4) ア
(5) (例) 戦乱が終わって、世の中が安定したから。
身分の上下や主君への忠義を大切にする儒学の教えが朱子学で、綱吉が重んじました。犬などの動物を大切にしよう命じたのが生類憐みの令です。近松門左衛門は「曾根崎心中」の作者です (「おくのほそ道」は松尾芭蕉、「日本永代蔵」は井原西鶴、「富嶽三十六景」は葛飾北斎です)。元禄文化は上方の町人が中心で、明るく活気がありました (イは化政文化の特色です)。記述の採点のめやす：「戦乱」「安定」の両方を使って書けていれば正解。【6・7】

3【8・9ページ】

- (1) 目安箱 (2) 上げ米 (上げ米の制でも正解)
(3) 公事方御定書 (4) 地主
(5) ウ
(6) (例) 問屋制家内工業は百姓が家で品物をつくったが、工場制手工業は作業場に人を集めて分業でつくった。
吉宗が庶民の意見を聞くために置いたのが目安箱で、意見から小石川養生所ができました。大名に米を納めさせ、代わりに江戸にいる期間を短くしたのが上げ米です。1742年に定めた裁判や刑罰の基準が公事方御定書です。田畑を買い集めて貸し、小作料を取ったのが地主です。百姓一揆は、百姓が団結して領主に求めた行動です (アは打ちこわしです)。記述の採点のめやす：「家」「分業」の両方を使って、つくる場所とつくり方のちがいが書けていれば正解。【8・9】

4【10・11ページ】

- (1) ア (2) 天明のききん
(3) エ (4) 狂歌
(5) (例) 倭約がきびしく求められ、政治を批判する本などの出版も取りしまられたから。
田沼意次は、商工業の力を利用して幕府の収入をふやそうとしました (イは綱吉のころ、ウは寛政の改革、エは天保の改革です)。1782年から続いたのが天明のききんです。借金 of 帳消しと朱子学以外の禁止は寛政の改革です (アは田沼、イは享保の改革、ウは天保の改革です)。政治や社会を皮肉った短歌が狂歌です。記述の採点のめやす：「倭約」「出版」の両方を使って書けていれば正解。【10・11】

5【12・13ページ】

- (1) 本居宣長 (2) 解体新書
(3) 伊能忠敬 (4) イ

(5) (例) 読み書きのできる人がふえ、本を読む人もふえて、文化が庶民に広まった。

国学を大成したのが本居宣長、翻訳書が解体新書、海岸線を歩いて測量したのが伊能忠敬です。北斎は「富嶽三十六景」をえがきました（「南総里見八犬伝」は曲亭馬琴、「おくのほそ道」は松尾芭蕉、「東海道中膝栗毛」は十返舎一九です）。記述の採点のめやす：「読み書き」「本」の両方を使って書けていれば正解。【12・13】

6【14・15ページ】

- (1) ラクスマン (2) 間宮林蔵
(3) 異国船打払令 (4) 上知令

(5) (例) 幕府の元役人が、幕府が直接支配する大阪で反乱を起こしたから。

1792年に根室に来たロシアの使節がラクスマンです。樺太が島であることを確かめたのが間宮林蔵です。1825年に出された、外国船を打ち払う法令が異国船打払令です。天保の改革で、江戸や大阪の周りの領地を幕府の領地にしようとしたのが上知令です。記述の採点のめやす：「役人」「大阪」の両方を使って書けていれば正解。【14・15】

7【1・9・14・16ページ】

- (1) イ → ア → ウ → エ
(2) 松平定信 (3) 雄藩

(4) (例) きさんのたびに一揆が起こり、外国船も近づいたので、幕府は改革をくり返す必要があったから。

公事方御定書は1742年、天明のきさんは1782年、寛政の改革は1787年、大塩平八郎の乱は1837年です。寛政の改革を始めたのは老中の松平定信で、天保の改革と同じころ、薩摩藩や長州藩などが力をつけて雄藩とよばれました。記述の採点のめやす：「一揆」「外国船」の両方を使って書けていれば正解。【9・14・16】